

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4420246号
(P4420246)

(45) 発行日 平成22年2月24日(2010.2.24)

(24) 登録日 平成21年12月11日(2009.12.11)

(51) Int.Cl.

A O 1 K 27/00 (2006.01)

F I

A O 1 K 27/00

Z

請求項の数 4 (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2007-67090 (P2007-67090)
 (22) 出願日 平成19年3月15日(2007.3.15)
 (65) 公開番号 特開2008-220332 (P2008-220332A)
 (43) 公開日 平成20年9月25日(2008.9.25)
 審査請求日 平成20年10月31日(2008.10.31)

(73) 特許権者 306013094
 株式会社スリーアローズ
 東京都品川区西五反田七丁目2番17号
 (74) 代理人 100071102
 弁理士 三觜 晃司
 (72) 発明者 伊藤 哲也
 東京都渋谷区東1-3-1 株式会社スリーアローズ内

審査官 坂田 誠

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ペット用胴輪

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

胴輪部を構成する胴輪部帯状部材の両端部に連結部材とリード取付け部材を設けると共に、前記胴輪部帯状部材の両端部間に、中間部が下方に突出した Y 形状の広幅部材として形成した胸当て用布状部材を取り付け、胸当て用布状部材の中間部下側と胴輪部帯状部材間に、連結用帯状部材を設け、この連結用帯状部材は、前記胴輪部帯状部材に対してのみ、その長さ方向に移動可能に設けたことを特徴とするペット用胴輪。

【請求項 2】

胴輪部帯状部材の両端部に設ける連結部材は着脱自在なバックルで構成したことを特徴とする請求項 1 に記載のペット用胴輪。

【請求項 3】

胴輪部帯状部材は長さ調節可能に構成したことを特徴とする請求項 1 に記載のペット用胴輪。

【請求項 4】

連結用帯状部材は長さ調節可能に構成したことを特徴とする請求項 1 に記載のペット用胴輪。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、犬等のペット（愛玩動物）を散歩させる際などに使用する胴輪に関するもの

である。

【背景技術】

【0002】

ペット用胴輪の従来例としては、例えば特許文献1や特許文献2に示されるものがある。いずれの例でも、ペット用胴輪は、ペットの首部と胴部に対応させて、一对の帯状部材（例えばベルト）を設け、それぞれの両端を互いに連結部材により連結するとともに、この連結部材にリード（引紐）を繋ぐための連結帯状部材と連結環を設けている。また、使用時において、一对の帯状部材が一定の間隔以上に広がらないように、それぞれの間隔部間を連結する幅規制帯状部材を設けている。

【0003】

10

このような胴輪は一对の帯状部材によりペットの首部と胴部を支持するので、首輪に比べ、ペットに掛かる力が分散され、ペットへの負担を軽減することができるが、各帯状部材を幅の狭いベルトで構成しているため、大きな力が加わると、帯状部材、特に首部の帯状部材がペットの体に食い込み、ペットに苦痛を与えるという問題点がある。

【0004】

そこで特許文献3では、このような問題点の解決を意図した提案がなされている。この従来例を図6および図7により説明すると、胴輪Xは首輪部分101、胴輪部分102および胸腹当部分103の三者を一連に幅広に形成している。そして、一方側の首輪部分の先端101aと胴輪部分の先端102aをベルト部104aで連結し、同様に他方側の首輪部分の先端101bと胴輪部分の先端102bをベルト部104bで連結する。さらに、ベルト部104aと104bにはそれぞれリング105aと105bを嵌めるとともに、両リング105aと105bに、締め具106を設けたループ状のリード取付けベルト107を挿通している。なお、リード108はリング109を介するなどして、リード取付けベルト107に接続する。

20

【0005】

このような胴輪Xは、締め具106を緩めて、リード取付けベルト107を、一对のリング105aと105bを近づける方向に引っ張ることにより、ペット110の身体にピッタリと装着させることができる。

【0006】

しかしながら、胴輪Xをペット110に取り付けたり、あるいは取り外したりするには、リード取付けベルト107の締め具106を操作して、一对のリング105aと105bが離れる方向に緩める必要があるが、その調節範囲を充分大きくしないと、胴輪Xのペット110への取付け、取外しが困難であり、操作に手間がかかるという問題点がある。また、調節範囲を充分大きくしたとしても、一对のリング105aと105bがリード取付けベルト107に拘束されたままなので、胴輪Xのペット110への取付け、取外しがスムーズに行えないという問題点がある。

30

【特許文献1】特許第2506285号公報

【特許文献2】特開2001-69869号公報

【特許文献3】特開2002-330659号公報

【発明の開示】

40

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

このように、特許文献1、2等で提案されている従来の胴輪は首輪に比べ、ペットへの負担をある程度軽減することができるが、帯状部材を幅の狭いベルトで構成しているものでは、リードを強く引っ張るなどして、大きな力を加えれば、やはり帯状部材がペットの体に食い込んで、ペットに大きな苦痛を与えるのを避けられない。また、特許文献3で提案されているもののように、首輪部分、胴輪部分および胸腹当部分の三者を一連に幅広に形成したものでは、ペットの体への食い込みは、さらに軽減されるが、ペットへの取付け、取外しに手間がかかるという問題点がある。

本発明はこのような課題を解決することを目的とするものである。

50

【課題を解決するための手段】**【0008】**

以上の課題を解決するために、本発明では、胴輪部を構成する胴輪部帯状部材の両端部に連結部材とリード取付け部材を設けると共に、前記胴輪部帯状部材の両端部間に胸当て用布状部材を取り付け、胸当て用布状部材の中間部下側と胴輪部帯状部材間に、連結用帯状部材を、前記胴輪部帯状部材に対して移動可能に設けたペット用胴輪を提案する。

【0009】

そして、本発明は上記構成において、帯状部材の両端部に設ける連結部材は着脱自在なバックルで構成したペット用胴輪を提案する。

【0010】

さらに、本発明は上記構成において、胴輪部帯状部材は長さ調節可能に構成したペット用胴輪を提案する。

【0011】

また、本発明は上記構成において、連結用帯状部材は長さ調節可能に構成したペット用胴輪を提案する。

【0012】

そして、本発明は上記構成において、胸当て用布状部材は、中間部が下方に突出したY形状の広幅部材として形成したペット用胴輪を提案する。

【発明の効果】**【0013】**

本発明のペット用胴輪は、胴輪部帯状部材を着脱自在なバックル等の連結部材で連結して構成しているので、ペットへの取付け、取外しは、連結部材の連結を解除して行えるため、きわめて簡単である。

【0014】

また、胴輪部帯状部材の両端部間に取り付けた胸当て用布状部材は、中間部が下方に突出したY形状の広幅部材として形成しているので、リードからペットに加わる力は、ペットの胸全体に分散され、細いベルトなどに比べ、ペットへの負担を格段に緩和する効果がある。

【0015】

胸当て用布状部材の中間部下側と胴輪部帯状部材間に取り付けた連結用帯状部材は、胸当て用布状部材と胴輪部帯状部材間の間隔が大きくなりすぎないように維持し、更に胸当て用布状部材の中間部下側の下方に突出させた部分が、使用時において垂れ下がったりすることなく、リードからペットに加わる力を、胸当て用布状部材と胴輪部帯状部材との双方で適切に支持できる。

【0016】

この連結用帯状部材は、いわゆるコキ等の長さ調節具により長さ調節を可能に構成しているため、ペットの体格に合った長さに調節することができる。

【0017】

胴輪部帯状部材は、使用時において、ペットの胴に巻いて、バックル等の連結部材を連結状態とするが、ペットの胴回りに比べて小さ過ぎるとペットに窮屈感を与えるし、また大き過ぎると、胴輪部帯状部材とペットの胴回りとの間に隙間ができてしまい、リードからペットに加わる力が急激となり、ペットに苦痛を与えてしまうので、胴輪部帯状部材の長さはペットの胴回りに合うように調節する必要がある。本発明においては、胴輪部帯状部材の長さを、いわゆるコキ等の長さ調節具により調節可能に構成しているので、これをペットの胴回りに合うように、調節することができる。

【0018】

さらに、本発明においては、連結用帯状部材を胴輪部帯状部材に対して移動可能に設けてあるので、胴輪部帯状部材の長さをペットの胴回りに合うように、長くしたりあるいは短くするなど調節しても、連結用帯状部材や胸当て用布状部材に対して、ねじったり、曲げたりする等の悪影響を及ぼすことはない。

10

20

30

40

50

【発明を実施するための最良の形態】

【0019】

次に、本発明を実施するための最良の形態を図1～図10を参照して説明する。尚、図1、図2は連結部材を連結していない状態の夫々正面図、平面図であり、図3、図4、図5は連結部材を連結した状態の夫々正面図、左側面図、底面図である。また図6は図5のA-A線断面図、図7は図5のB-B線断面図である。また図8、図9、図10は使用状態の説明図である。

【0020】

図に示すように、本発明のペット用胴輪1は、胴輪部帯状部材3の両端部3a、3bに連結部材4a、4bとリード取付け部材5a、5bを設けている。そして、図2に示すように、胴輪部帯状部材3を連結部材4a、4bで連結して胴輪部6を構成するものとして10
いる。さらに胴輪部帯状部材3の両端部3a、3b間に、中間部が下方に突出したY形状の広幅部材として構成した胸当て用布状部材7を取り付け、胸当て用布状部材7の中間部下側と胴輪部帯状部材3との間に、連結用帯状部材8を胴輪部帯状部材3に対してのみ、その長さ方向に移動可能に設けている。

【0021】

連結部材4a、4bは、本実施例においては、それぞれをバックルの雄部と雌部で構成して着脱自在とし、ペット用胴輪1をペット2に取り付ける際は、まずこの連結部材4aと4bの連結を解除する。そして、ペット2の左前肢9aと右前肢9bのそれぞれを、左輪状部10aと右輪状部10bにペット用胴輪1の裏側1bから表側1aに通して、胸当20
て用布状部材7をペット2の胸に、また胴輪部帯状部材3をペット2の前肢9の後ろ側の腹部に、それぞれ対応させて装着状態とし、そしてペット用胴輪1がペット2から外れないように、連結部材4aと4bを連結する。

【0022】

このような装着状態にすると、リード取付け部材5a、5bは互いに近接するので、先端にフック11等の連結具を取り付けたリード12を用意しておけば、フック11をリード取付け部材5a、5bに一括して引掛けることにより、リード12をペット用胴輪1に繋ぐことができるので、飼い主等（図示せず）はこのリード12の他端を持つなどして、ペット2を安全、快適に散歩や外出に連れて行くことができる。

【0023】

そして、ペット2の散歩が終わるなどして、ペット用胴輪1をペット2から取り外す際は、以上とは逆の操作を行えばよい。つまり、リード12のフック11をリード取付け部材5a、5bから外し、連結部材4aと4bの連結を解除して、ペット2の前肢9を、輪状部10から抜けば、ペット2からペット用胴輪1を取り外すことができるので、取付け時と同様、取外し時の操作もきわめて簡単である。

【0024】

胴輪部帯状部材3や胸当て用布状部材7、そして連結用帯状部材8等は強い力が加わっても容易に切れたり破れたりせず、適度な強度を有し、しかもペット2の体に対して優しいものであれば天然繊維や合成繊維あるいは皮革など適当な材料で構成して良い。

【0025】

胴輪部帯状部材3は、本実施例においては、左右側に対応する一对の長さ調節具（この場合はコキ）13a、13bを設けて、この長さ調節具13a、13bを操作して、胴輪部帯状部材3の長さを、ペット2の胴回りに合うように、調節可能に構成している。

【0026】

胸当て用布状部材7の中間部下側と胴輪部帯状部材3間に取り付けた連結用帯状部材8には、長さ調節具（この場合はコキ）14と保持部材（この場合はサルカン）15を設けて、連結用帯状部材8の長さを調節できるようにしている。なお、連結用帯状部材8は図3に示すように、これを胴輪部帯状部材3に縫製等で固定しないで、ループで係合しているので、連結用帯状部材8は胴輪部帯状部材3に対して相対的に移動可能である。

【0027】

10

20

30

40

50

リード取付け部材 5 a、5 b は、本実施例においては、金属製のリングで構成したが、丈夫な環状プラスチック等でも良い。

【産業上の利用可能性】

【0028】

以上のように、本発明のペット用胴輪は、リードからペットに加わる力によるペットへの負担を格段に緩和し、しかもペットへの取付け、取外しがきわめて容易なので、手軽にしかも安全、快適に犬等のペットを散歩や外出に連れて行くことができ、したがって飼い主にとってはとても大切なペットの健康増進に役立ち、その結果、高額なペット医療費の削減にも寄与するので、その産業上の利用可能性はきわめて大である。

【図面の簡単な説明】

10

【0029】

【図1】本発明に係るペット用胴輪の一形態を連結部材を連結していない状態で示す正面図である。

【図2】本発明に係るペット用胴輪の一形態を連結部材を連結していない状態で示す平面図である。

【図3】本発明に係るペット用胴輪の一形態を連結部材を連結している状態で示す正面図である。

【図4】本発明に係るペット用胴輪の一形態を連結部材を連結している状態で示す左側面図である。

【図5】本発明に係るペット用胴輪の一形態を連結部材を連結している状態で示す底面図である。

20

【図6】図5のA - A線断面図である。

【図7】図5のB - B線断面図である。

【図8】使用状態の説明図である。

【図9】使用状態の説明図である。

【図10】使用状態の説明図である。

【図11】従来例の説明図である。

【図12】従来例の説明図である。

【符号の説明】

【0030】

30

1	ペット用胴輪
2	ペット（犬、猫等）
3	胴輪部带状部材
3 a、3 b	胴輪部带状部材の端部
4（4 a、4 b）	連結部材
5（5 a、5 b）	リード取付け部材
6	胴輪部
7	胸当て用布状部材
8	連結用带状部材
9	ペットの前肢
9 a	ペットの左前肢
9 b	ペットの右前肢
10	輪状部
10 a	左輪状部
10 b	右輪状部
11	フック
12	リード
13（13 a、13 b）	長さ調節具（コキ）
14	長さ調節具（コキ）
15	保持部材（サルカン）

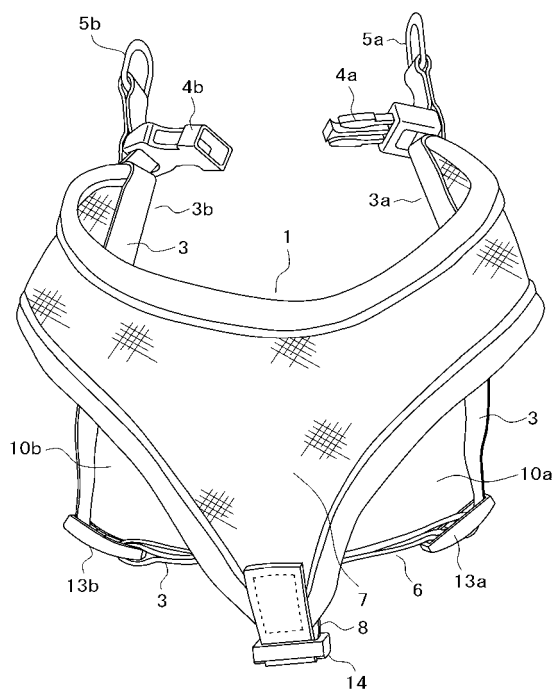
40

50

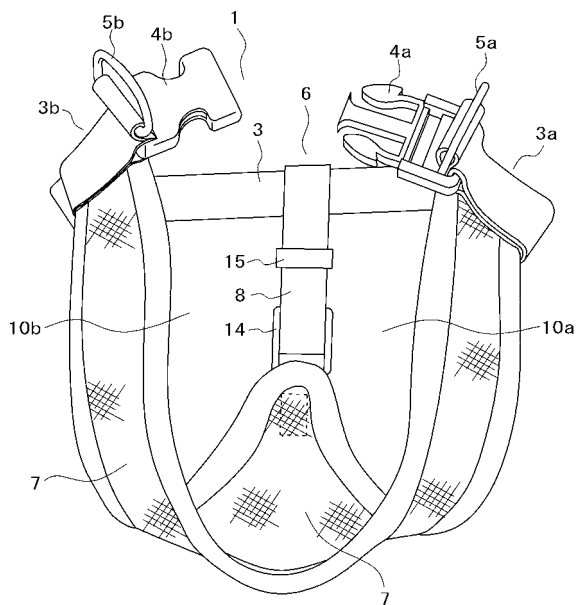
1 6	リード取付け部
X	従来例のペット用胴輪
1 0 1	首輪部分
1 0 1 a、1 0 1 b	首輪部分の端部
1 0 2	胴輪部分
1 0 2 a、1 0 2 b	胴輪部分の端部
1 0 3	胸腹当部分
1 0 4 (1 0 4 a、1 0 4 b)	ベルト部
1 0 5 (1 0 5 a、1 0 5 b)	リング
1 0 6	締め具
1 0 7	リード取付けベルト
1 0 8	リード
1 0 9	リング
1 1 0	ペット

10

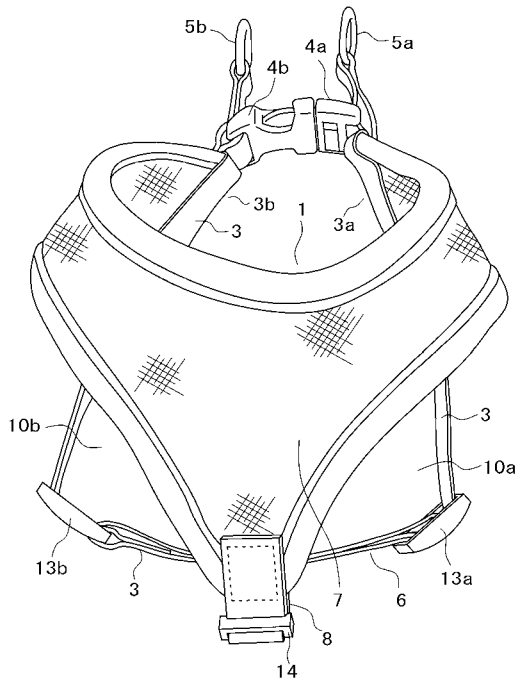
【図 1】



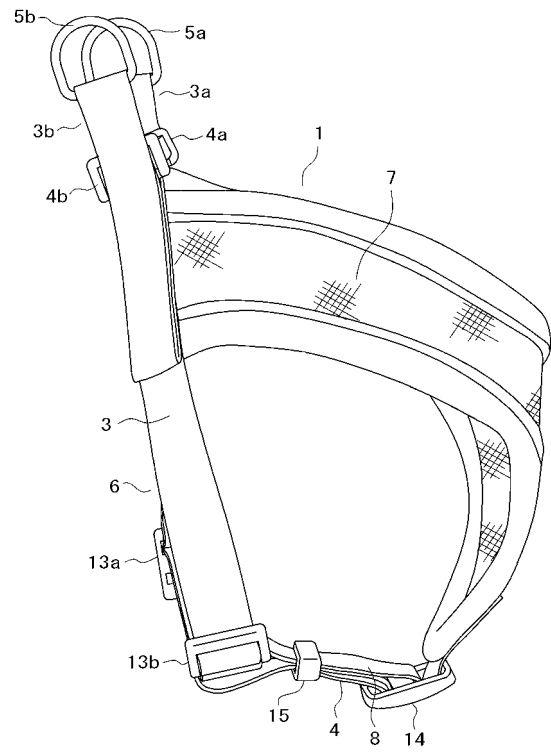
【図 2】



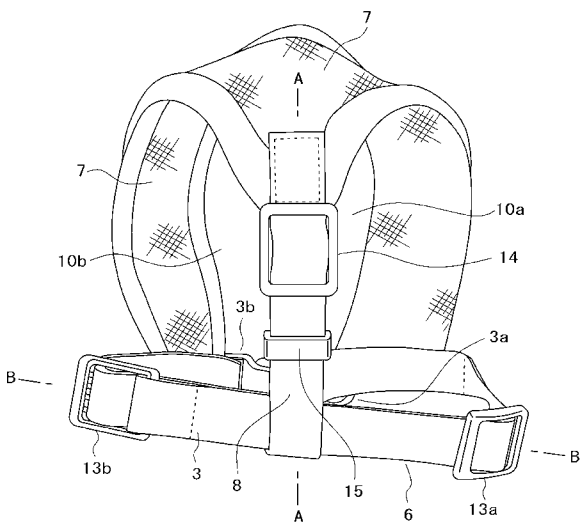
【図 3】



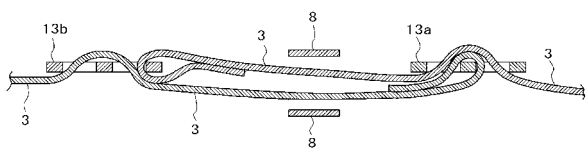
【図 4】



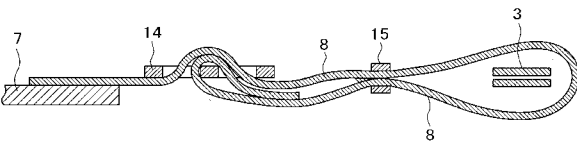
【図 5】



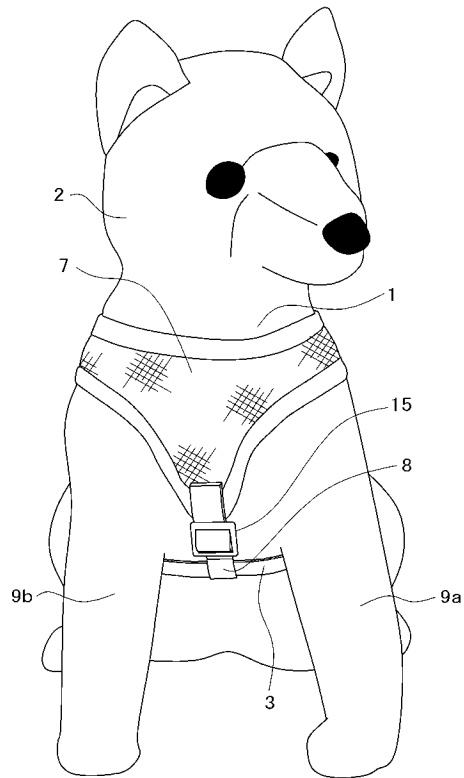
【図 7】



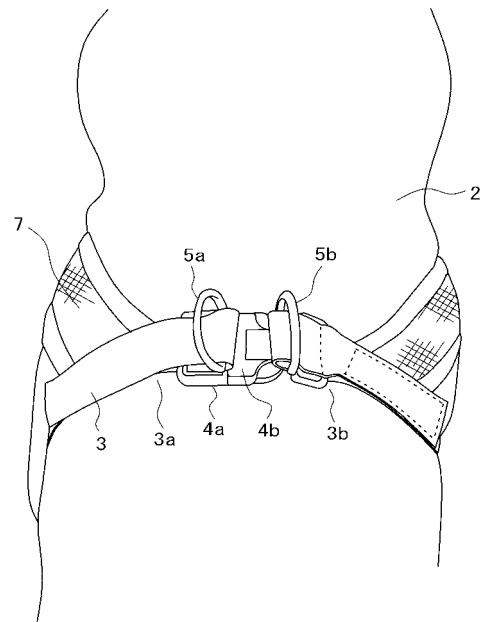
【図 6】



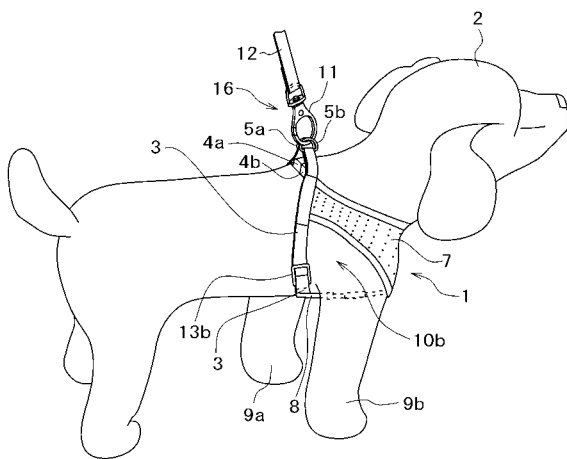
【図 8】



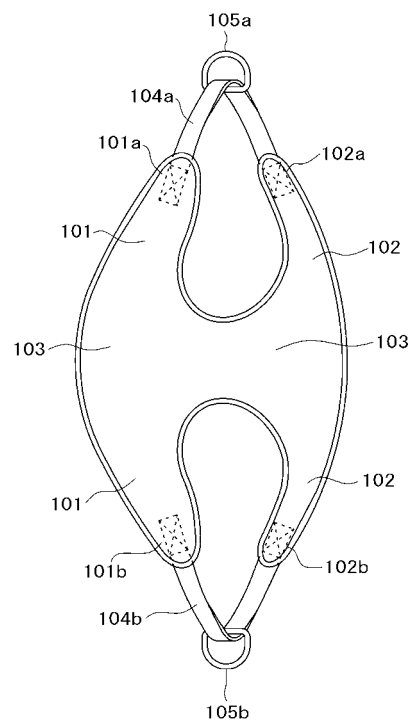
【図 9】



【図 10】



【図 11】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開 2 0 0 2 - 2 9 1 3 7 0 (J P , A)
実開平 0 4 - 1 3 3 1 6 8 (J P , U)
米国特許第 0 5 5 0 3 1 1 3 (U S , A)
特開 2 0 0 6 - 2 3 0 3 2 0 (J P , A)
特開平 1 0 - 2 5 7 8 3 3 (J P , A)
実開平 0 6 - 0 4 5 4 4 5 (J P , U)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

A 0 1 K	1 3 / 0 0
A 0 1 K	2 3 / 0 0
A 0 1 K	2 7 / 0 0
A 0 1 K	2 9 / 0 0